令和６年度川崎市化学物質環境実態調査の結果について

１　概要

川崎市では、人の健康や生態系への影響が懸念される未規制の化学物質について、有害性情報や PRTR*データ等を考慮して物質を選定し、市内の大気及び公共用水域(河川水質、海域水質、海域底質)を対象に環境調査を実施しています。令和６年度の調査物質及び調査結果は次のとおりです。

＊ PRTR 制度（化学物質排出移動量届出制度）：有害性のある多種多様な化学物質が、どのような発生源から、どれくらい環境中に排出されたか、あるいは廃棄物に含まれて事業所外に運び出されたかというデータを把握、集計し、公表する仕組みです。

２　調査物質一覧

(1) 調査物質及び調査媒体

令和６(2024)年度の調査物質は次のとおりです。

表１　調査物質及び調査媒体

物質名	調査媒体				主な用途等
	大気	公共用水域			
		河川水質	海域水質	海域底質	
クロム及び三価クロム化合物（全クロム、六価クロム化合物）	○	－	－	－	顔料、メッキ等
アクリル酸	○	－	－	－	高吸水性樹脂、合成原料等
四塩化炭素	○	－	－	－	他のクロロカーボン・農薬・ふっ素系ガスの原料、試薬等
ヘキサン	○	－	－	－	接着剤・インキ・ポリオレフィン用重合溶剤等
ヒドラジン	○	－	－	－	ロケット燃料、（水和物として）プラスチック発砲剤製造用・清缶剤（脱酸素及び脱炭酸ガス）・還元剤等
ピリジン	－	○	○	－	抗菌剤、医薬品の原料、合成ゴムの加硫促進剤の原料等

（注）－：調査を実施していない項目

(2) 調査結果

ア　大気

ヒドラジンについては、市内の環境濃度をスクリーニング的に把握するため市内全域において、その他４物質については、これまでの環境リスク評価で相対的にリスクが高いと考えられた地域において調査を実施しました。

表２　大気の調査結果

物質名	調査地域	濃度（μg/m^3）
ヒドラジン	市内全域（臨海部、内陸部、丘陵部）	<0.00030※～0.00049
クロム及び三価クロム化合物（全クロム、六価クロム化合物）	南部（臨海部）	0.0077～0.019
アクリル酸	南部（臨海部）	0.048～0.056
四塩化炭素	南部（臨海部）	0.66～0.72
ヘキサン	南部（臨海部）	1.2～8.2

（注）※：MDL（0.00030μg/m^3）

イ　公共用水域（河川水質・海域水質）

公共用市域の河川水質及び海域水質について、図１の地点において調査を実施しました。

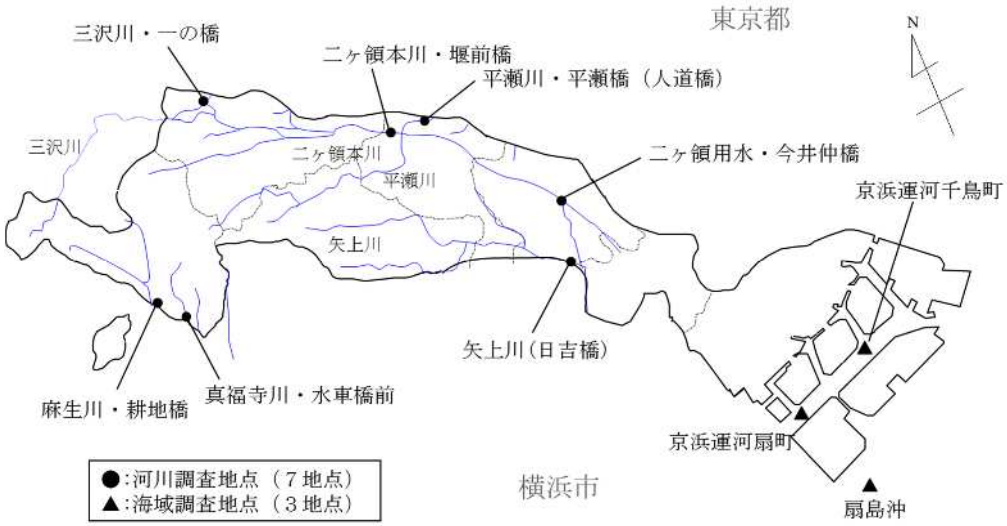

図１　調査地点

表３　公共用水域(河川水質)の調査結果

（単位：μg/L）

物質名	三沢川 一の橋	二ヶ領本川 堰前橋	二ヶ領用水 今井仲橋	平瀬川 平瀬橋	麻生川 耕地橋	真福寺川 水車橋前	矢上川 日吉橋
ピリジン	0.021	0.023	0.038	0.020	0.062	0.028	0.017

（注）年４回調査の平均値

表４　公共用水域(海域水質)の調査結果

（単位：μg/L）

物質名	京浜運河扇町	扇島沖	京浜運河千鳥町
ピリジン	0.070	0.069	0.15

（注）年４回調査の平均値